

令和6年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

○新しい価値と可能性を追求する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる。

【学校 目標】

自信と誇りを持ち 夢と志をはぐくむ教育

○打ち出す力 挑戦する生徒 ○智恵を出し合い心耕す生徒 ○伝統を大切に地域を愛する生徒

【現状と課題】

- 視点1 授業における「ゆさぶる課題」の設定と、どのタイミングでどのような「課題の投げかけ」が効果的であるかについて学校全体で取り組んでいくため、全教員の取組としてのさらなる追求が必要である。
- 視点2 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、自己肯定感や自尊感情の向上が継続的な課題であり、自他ともに大切にできる生徒の育成に力を入れる必要がある。
- 視点3 若い教員が増える中で、先輩教員の学級経営や生徒指導、教科指導に関する継承が円滑にすすむよう、組織力を高めていくことが必要である。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】
※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合です。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①ICTを効率的に活用するなど、個別最適化された学びをすすめる。	・授業で効果的なICTを活用し、個別最適な学びの実践をした。		
②「主体的・対話的で深い学び」のために、生徒をゆさぶる課題と投げかけの在り方について研究・実践を行った。	・生徒同士が主体的に思考し意見を交わせるように、「ゆさぶる課題」と「投げかけの在り方」について研究・実践を行った。		
②に対する学校評価アンケート(教員対象)において、「主体的、対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会ができた。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上	・②に対する学校評価アンケート(教員対象)において、「主体的、対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会ができた。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上		
【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①生徒が自らの考えを深め、判断し表現する力を育む道徳の実践をする。	・道徳の授業で生徒が自らの考えを基に討論したり書いたりするなど、言語活動の充実を図ることができた。		
②発達支持的生徒指導を推進し、学級活動や生徒会活動で生徒に役割を与え、認めていくことで、自他ともに大切に、いじめをしない集団作りにつなげる。	・授業や学級経営で多様な意見を認め合い、全ての生徒が安心して、考えたことを発言できる機会を設定するなど、自己存在感を高める取組を行った。		
	・②に対する学校評価アンケート(生徒対象)において、「先生は、いじめなどの問題にきちんと対応し、安心して登校できる学校づくりに取り組んでいる。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上。		
【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○OJTやG-OJTにより指導力を高めるとともに、ベテラン教員が若手教員に知識・技能を伝授し、共に資質・能力の向上に努める。	・OJTや他の教員の授業参観で学んだり、指導・助言を行ったりすることで、授業や学級経営、生徒指導の改善を図ることができた。		
	・組織的な指導力の向上のために、教師が授業のフリー参観の実施や、道徳授業を全校教員で取り組み、教科の取組の改善点などについて意見交流をすることができた。		
	・学校評価アンケート(生徒対象)において、「先生は、内容が分かりやすくなるよう、授業を創意工夫している。」に対する肯定的な回答の割合が8割以上。		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・学力向上委員会で「学ぶ力向上策」について検討し、作成する。
- ・年度当初の職員会議において、打出中学校の「学ぶ力の向上策」の取組について説明する。
- ・6月、8月、11月、2月の教科部会で、各教員が取組の振り返りを行う。
8月の教科部会の振り返りを基に、学力向上委員会で1回目の評価を行い、改善策をまとめる。その後の職員会議で取組の状況と改善策を共有し、後期の取組につなげる。

今年度の取組の成果と課題

--